

神奈川県社会福祉協議会 第2種・第3種正会員連絡会 活動成果普及事業
「活動成果普及助成」助成団体 ホームページ掲載用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、以下に事業の概要を分かりやすく、簡潔に記入してください。

団体名	公益社団法人日本てんかん協会神奈川県支部
事業名	てんかんがある方々の生活支援・就労支援Ⅱ (受入れ、経過、移行の実態)
事業の概要〔事業の目的・取組みの概要・成果や参加者の様子・今後の展望等〕 今回の事業は、支部世話人中心の研究会にて実態情報についての共有と、今年度の調査方法について話し合い、方向性についての議論をしました。福祉施設でてんかんのある方々は利用しているものの、知的・身体重複障害がある場合には、発作よりもそちらの方に目が行ってしまい、発作への対応は具体的には中心課題にならないこと、発作があまり起きない方が多いので、いざ発作だ、といった場合に職員があわててしまう、という課題が問題点として抽出されました。 その後、2020年12月12日の第15回てんかんリハビリテーション研究会にて、2019年度の研究成果を発表しました。てんかんリハビリテーション研究会（オンライン参加）にては、てんかんの治療、リハビリテーションに携わっている全国の専門医やパラメディカルスタッフ、地域のリハビリテーション専門職に、てんかんの方々が受けている障害福祉サービスの実情について示し、より効果的に利用していただくための方策について、問題提起することができました。 そして、2021年12月7日から2021年1月31日までの間、上記を踏まえて15か所の事業所のヒアリング調査を実施しました。ヒアリング調査においては、生活介護、就労継続支援B型（非雇用型）、生活訓練（2年間のコース）、共同生活援助（グループホーム）、入所施設の5種の施設について、てんかんの方々の受入れ・継続・（他の施設への）移行等の実態について把握、それぞれいくつかのパターンに分け、分析し、例示しました。 最後に、2021年2月1日から2月28日の間、専門医の委員3名の指導を仰ぎ、報告書を作成、3月11日付で関係各所に報告書を送付しました。日ごろの支部活動における相談支援の経験値から、①てんかん当事者が社会参加する場合の選択肢、②てんかん当事者・今後の住まいはどうするか？③てんかんを発症・通院はどうするか？の、3つのフローチャートを作成しました。こちら、専門医の先生方の監修を受け、わかりやすく見やすいものにしてみました。 詳細は支部のHPにPDFを掲載しますので、ぜひご覧ください。 公益社団法人日本てんかん協会 神奈川県支部代表 青柳智夫 神奈川県支部HP https://jeaofkanagawa.wordpress.com/	